

牛久：学校周辺に見る自然

第1号 牛久自然観察の森

2021年4月1日発行

＜ 春の訪れ ～①サクラとそのなかま（バラ科） ＞

みなさん、こんにちは。今年度も、よろしく申し上げます。中学校の支援がなくなり、今年度は4つの小学校でお世話になります。

今年も、春休みに入って気がついたら体重がだいぶ増えていました。昨年と同じことを書いたのですが、腰が痛いのもそのせいかと、久しぶりにカメラを手に牛久自然観察の森に行ってきました。今回は、とてもきれいだったサクラとそのなかま、バラ科の樹木を紹介いたします。解説は一部、昨年のコピーです。



花が咲いて、あとから葉が開くソメイヨシノ。校庭にもよく植えられる（3.24）。

まずは、ソメイヨシノ。花が先に開きあとから葉が開いてくるのですが、気温などが同じ地域では同じ時期にいっせいに咲き、そしていっせいに散っていきます。それで桜の開花日などは主にソメイヨシノで記録され、その年の季節の進み具合をみる参考にされています。じつは、このソメイヨシノ、種子ではふやせず、ふつうは接ぎ木で繁殖させます。つまり、新しくできたなかまは、同じ遺伝子をもったクローンなのです。今では北海道から九州まで広く植えられ愛されていますが、オオシマザクラとエドヒガンの間にできた雑種のクローンが広められたものと考えられています。



たれ下がった枝に花が咲くシダレザクラはエドヒガンからできた品種で、ソメイヨシノよりも少し早めに咲きます。

たれ下がった枝に花が咲くシダレザクラ（左:3.24）と、エドヒガン（右:3.30稲敷市）。



ヤマザクラは花と同時期に葉も開きますが、同じ地域でも木によって早く咲くものもあれば遅いものもあります。開きはじめての葉が、赤茶色しているものが多いようです。

天気がいいと、ミツバチやメジロ、ヒヨドリなどが盛んに蜜を吸いに来ます。

花と葉が同時期に開く、ヤマザクラ。開きはじめての葉は、赤茶色していることが多い (3.27)。



スモモとハナモモ (左: 白いのがスモモでピンクはハナモモ)。スモモ (右) は、果物プラムのなかまの一つ。

さくらのなかまはバラ科サクラ属というグループに入っていますが、ウメやアンズ、モモ、そしてスモモも同じグループに入ります。花も、よく似ていますね。



他にも同じサクラ属のなかま、ユスラウメ、バラ科だけれど別の属のヤマブキ、クサイチゴ、クサボケ、モミジイチゴ、ユキヤナギも咲いていました。クサイチゴやクサボケは、”クサ”とついても木のなかまです。では、ここで問題。バラ科の花の特徴は何でしょう？比べてみましょう。答えが分かったら、たしかめに来て下さい。

【理科支援員：宮内】



バラ科のなかまユスラウメ (左上3.24) とヤマブキ (左下3.27)、クサイチゴ (中3.27)、クサボケ (右3.24)。



おまけにソメイヨシノの蜜^{みつ}を吸うメジロ(上: 3.27 牛久自然観察の森)
と、稲敷市新利根体育館(中: 3.30)
、龍ヶ崎市たつのこ山(下: 3.30)のサクラ。

